令和３年度（2021年度）「OPEN！みんなで話そう！やまさき市長とともに」においての市民からの声（提案・意見等）への対応状況

年度	日時	テーマ	担当課	No.	市民からの声 （意見・提案等）	当時の回答内容 （課題、問題点、今後の方針）	令和４年１０月末時点 対応状況 （プルダウンより選択）	これまでの取組内容	今後の方針等
令和３年度 （2021年度）	11月14日	宝塚市の救命率向上に向けて	救急救助課	1	救命講習を受講したことで、実際の状況に遭遇した際、消防への電話など対応することが出来た。	年間一万人の受講を目指して毎年救命講習を実施している。	済	年間一万人の受講者を目指し、新型コロナウイルス流行により中止していた救命講習を再開している。	ｗｉｔｈコロナにおける応急手当普及啓発活動のあり方を検討している。
				2	特に高校生・大学生は大人に近く、ぜひ受講してもらいたい。講習を何度か受けていないと、その場にいても動けない。	若い世代にしっかりと理解してもらい、色々な方に伝えてもらうというのも、ひとつの普及方法としていいかもしれない。	済	若い世代が利用しているＳＮＳを用いた広報活動を積極的に実施している。	動画共有サービスやビデオ通話アプリを活用した応急手当普及啓発活動について検討している。
				3	救命講習には若い世代の参加が少ないと感じた。開催情報について、インターネットや動画などWebを活用した広報を行うと、若い人も知るきっかけになると思う。	広報戦略を再検討する。	済	ホームページに開催情報を掲示するとともに、ＳＮＳを用いて実際の救命講習の様子をアップしている。	ＳＮＳを活用した広報を引き続き実施する。
				4	イベントの中で様々な講習の場を設けると、親子連れなど色々な方が会場に集まる。そういう機会を持っていただくのが大事。興味はあっても機会が無いという方が多い。	様々なイベントに消防も一緒に行って、しっかり宣伝していきたい。	済	「救急の日」啓発事業を宝塚市立文化芸術センターで実施した。	多数の市民が集まるイベントでの広報活動を検討する。
				5	若い世代や講習に行くことが無い人を引き込むためのインセンティブのようなものがあると良い。	検討次第だが、広く多くの人に興味を持ってもらう方法として、それもひとつだと思う。	済	ＷＥＢによる応急手当講習を受講すれば、対面での講習時間を短縮可能な講習を実施している。	救命講習受講の動機付けに繋がる広報を検討する。
				6	市として、西谷地区の脳梗塞・心筋梗塞に対する対策や取り組みを何か考えているか。	一刻も早い医療介入を目指しており、ドクターカーが一番の肝になる。また、山間部であればドクターヘリを要請することもある。	済	ドクターカー、ドクターヘリとの連携活動を行っている。	よりスムーズな連携ができるよう、ドクターカー医師や看護師との合同訓練の実施を検討する。
						宝塚・川西・猪名川の２市１町で協定を結び、1つの指令室として、現場の一番近い場所から救急車がすぐ動けるよう連携している。	済	令和４年２月に協定に基づく川西市、猪名川町との相互応援出動体制を強化した。	川西市、猪名川町との連携を継続する。